

令和4年度 前期始業式 校長挨拶（2022年4月5日）

おはようございます。本日から令和4年度が始まります。

2・3年生の皆さん、休み中「今、自分にできることは何か。」について、考えてくれましたか。自分のマイナスの感情に打ち克つために、夢の根っこを探して、今を大切に、今でできること見出して、自分ができる力で主体的に取り組んで、前進していきましょう。

SEKAI NO OWARI という男女4人組のバンドを知っていますか。ピエロのお面を被ったDJがいるバンドです。そのヒット曲に「♪Dragon Night （2014リリース）」という曲があり、その中に心にひっかかる歌詞があるので紹介します。

1番の中の途中で

「人はそれぞれ「正義」があって、争い合うのは仕方ないのかもしれない」

「だけど僕の嫌いな「彼」も彼なりの理由があると思うんだ」

そして2番でそのフレーズを受けて

「人はそれぞれ「正義」があって、争い合うのは仕方ないかも知れない。」

「だけど僕の「正義」がきっと彼を傷つけていたんだね」

これを、連日忌まわしい映像が送られてくるロシアによるウクライナ侵攻にあてはまるようになります。

ロシアのプーチン大統領はウクライナ侵攻の理由について、「ロシア、そして国民を守るには他に方法がなかった。」と攻撃開始を宣言する演説で述べました。特に、ウクライナ東部の親ロシア派組織が占拠している地方のロシア系の住民をウクライナ軍からの攻撃から守り、西側諸国の軍事同盟である NATO からの脅威に対抗する「正当防衛」を行うという主張です。これがロシア側の示す正義です。この「正義」がロシアの兄弟国ウクライナの人々を戦禍に巻き込み、罪のない一般市民を死と恐怖に追い込んでおります。侵攻しているロシア兵にも多くの死者が出ています。化学兵器・生物兵器そして核兵器の使用の恐れまで出ています。

一日も早い停戦を望みます。

自分の思い込んだ「正義」によって他人を傷つけることは、案外、私たちの日常に溢れているのではないのでしょうか。法律は規則を守るのは「正義」として揺るぎない部分ではありますが、「親や先生はこうあるべきだ。」や「子供や生徒はこうあるべきだ。」、「友達はこうあるべきだ。」といった。「かくあるべき」という、それぞれの思いが、「正義」になり変わって、それを剣にして、その人を傷つけてはいないのでしょうか。「かくあるべき。」は本当に正しいのか。「かくあるべき。」はそれを向ける人が許容できるものなのか。考えをめぐらせる必要があると思います。

「他人を変えることは簡単にはできない。」しかし、自分を変えることで「他人が変わっていくことがある。」 相手を受け留め、許容することで、懐のふかい豊かな人間性を育てて欲しいと思います。

先が見通せないコロナ禍にあって、人と人とのコミュニケーションが取りづらい状況の中、マイナスの感情が膨らみやすい状況に人は置かれます。そういう時代を生きる私たちは、感染防止のための「新しい生活様式」のみならず、「新しい感情のコントロール」を身に付ける必要があります。

志学館高校は、多様な学びの中で、いろいろな人の良さを受け入れ尊重する生徒が多く、穏やかでのびのびして素晴らしい校風をもっていると思います。

是非、先輩たちがつくった、この校風を受け継いでいってください。そのためには、マイナスの感情で人を傷つけないことが第一だと思います。

結びに、この1年が、皆さんにとって実り多き1年になるとともに、新型コロナ感染をはじめとして、病気や事故に巻き込まれない1年になることを祈っております。

以上、前期始業式にあたっての校長からの話とします。